「２０１５平和行動 in 根室」の開催

日本固有の領土である北方四島が、旧ソビエト連邦によって不法占拠されてから７０年が経過する中、連合は、「戦後７０年 未来につなぐ平和への想い」のスローガンのもと、９月１２日から１３日の２日間にわたり「２０１５平和行動 in 根室」を開催した。

１日目は、北方四島交流センターにおいて「北方四島学習会」が開催され約８００名が参加した。学習会では第一部として映画「ジョバンニの島」が上映された。第二部では４つのセミナーのひとつとして、映画のモデルとなった得能宏さんをはじめとする語り部の方達との意見交換なども実施され、元島民の「故郷へ帰りたい」との強い思いに共感した。またその他のセミナーでも、島の現状や諸課題、日ロ交渉の打開の道など、多岐に亘る様々な観点から北方四島について学んだ。

２日目、納沙布岬・望郷の岬公園において開催された「２０１５平和ノサップ集会」には、全国から１２００名の仲間が集結した。主催者挨拶にたった連合神津里季生事務局長は、ロシア政府がクリル社会経済発展計画に莫大な予算を投じ、北方四島占有の既成事実化を進めていること、先月２２日にメドベージェフ首相が初めて択捉島を訪問し、日本政府からの抗議にも関わらず、島内視察を強行したことについてふれた。こうした情勢を踏まえ「日本政府は北方領土の返還に向けた道筋を速やかに見直し、より戦略的な外交交渉に向けて努力していくことを強く求めるとともに、連合も民間の立場からその後押しに向けて取り組みを一層強化していく。」と決意を述べた。そして、今後、取り組むべき課題として、より戦略的な観点に基づくビザなし交流が実施されるよう関係団体と協議を進めること、北方四島にかつて日本人が住んでいた証である日本建築物の再建を挙げ、今後も運動を継続していくと提起した。続いて地元北海道を代表し挨拶にたった連合北海道工藤和男会長は、「領土問題の打開には、連合の構成組織や、国民一人ひとりが、歴史の現状について理解を深めるために活動を展開していく必要がある。元島民や運動団体の関係者と連携し、北方領土返還要求運動の継承者を育成する取り組みや、さらなる世論の喚起が求められている。平和行動を通じて見たことや感じたこと、学んだことを持ち帰っていただき、地域や家族へ広げていただきたい。」と訴えた。

引き続き、平和リレーが行われ、平和４行動スタートの地、沖縄へピースフラッグが受け渡された。最後に、地元釧根地協佐藤久夫会長が四島一括返還を願って力強い団結がんばろうで締めくくった。

連合北海道は、今後も北方四島の早期返還と、日ロ平和条約の締結による真の友好関係の構築に向け、職場・地域にいる仲間とともに北方領土返還運動に粘り強く取り組んでいく。